

常栄寺(雪舟庭)・瑠璃光寺・大内氏館跡

アゴラ造園(株) 小島孝志/(株)勝楽園 碇石豊/(株)本橋造園 本橋武司

はじめに

山口市は、かつての大内氏の本拠地であり、戦国時代の遺跡や歴史的な建造物が多く残っています。瑠璃光寺の五重塔や大内氏館跡など、歴史的な名所が点在しており、雪舟の庭園が広がる常栄寺も、禅の精神を感じながら静けさを楽しめる歴史に興味のある人にはたまらない場所です。

概要・感想等

1. 常栄寺(雪舟庭)

常栄寺は、著名な禅僧・画家の雪舟が手掛けた枯山水庭園が有名な寺院です。我々以外に訪れている人は少なく庭園内は静寂に包まれ、自然と人の心が調和した空間が広がっていました。石組や水の流れが巧みに配置され、雪舟の美的感覚が表現されています。庭園を囲む山々とともに、時間を忘れさせるような深い静けさを感じました。

研修を通じて、雪舟が描く世界観を体感でき、芸術と禅の奥深さに触れることができ、心が洗われるような貴重な体験でした。



常栄寺(雪舟庭)

2. 瑠璃光寺

次に瑠璃光寺を拝観しましたが、国宝で有名な五重塔は残念ながら令和の大改修工事のため近寄る事は出来ませんでした。しかし、遠目でも塔の美しさや精緻な建築技術は印象的で、五重塔の壮大さを感じることができ、修復作業が進む中で、守り続けられる文化遺産の大切さを改めて実感しました。

奥の方では受験に縁起があると言われる、松と一体化しているサルスベリや手を叩くとビヨーンと音の反響する石畳があったりと見所満載でした。



瑠璃光寺にて

3. 大内氏館跡

戦国時代の大内氏の壮大な拠点である大内氏館跡では、発掘された遺構や広大な敷地に現在も土塁や堀跡が残り、当時の面影を感じることができました。

当時の繁栄を偲ぶことができ、栄華と衰退を学ぶ貴重な機会となり、歴史の重みを実感しました。



大内氏館跡

終わりに

過去と現在を感じさせる風景が市内の生活に違和感なく溶け込んでいるのが山口市の魅力の一つなんだなと思いました。7月の35度を越す厳しい暑さの中での文化遺産巡礼は疲れましたが、暑さを感じつつも、どの場所も心に残る深い体験となりました。

角島大橋

(株)田中造園：田中啓介、尾崎誠 (株)アップフィールド：上原謙 (株)小関田中園：田中則雄 澤山紘一

はじめに

角島大橋は平成12（2000）年に開通した本州と角島を結ぶ全長1780メートルの橋で、橋の長さは無料で渡ることのできる橋としては日本屈指の長さで、完成した当初は日本一でした。角島大橋の全景は本州と角島の間にある鳩島を迂回するように大きくカーブしていて、橋脚の高さを抑え、テトラポットの数も抑え、周囲の景観に配慮した構造になっています。また、景観の美しさから、様々な映画やドラマ、CMなどの撮影場所になっています。

見どころ

1. コバルトブルーとエメラルドグリーンの海

橋の両サイドには美しい海が広がっており、貝殻が砕けて堆積した白い砂で、海水が澄んでいるため、太陽光の加減で見る位置によってエメラルドグリーンからコバルトブルーに変化していく海を見る事が出来ます。

橋の中間にある鳩島の近くは、海流の関係で、橋に向かって寄せる波と、橋に当たって返す波がぶつかり合って白い壁のように見え、壁の先がコバルトブルーに見え、手前の橋の近くがエメラルドグリーンに見え、壁によって海の色がくっきり変わって見えてとても綺麗です。



2. 角島灯台

角島灯台は明治9（1876）年に完成した日本海側で初の洋式灯台で、「日本灯台の父」と呼ばれるリチャード・ヘンリー・ブラントンによって設計されました。また、日本に2基しかない無塗装の灯台の一つで、塔全体を花崗岩で統一しており、とても美しい見た目です。高さは約30メートルで、日本で三番目の高さで、日本に五ヶ所しかない第1等レンズを使用しています。現在も現役で活躍していて、現役で使われている最古の灯台レンズで角島灯台は国の重要文化財に登録されています。

灯台の内部は105段の螺旋階段になっていて、最上階まで上るとコバルトブルーの日本海が広がっています。



終わりに

今回の研修では時間の都合上、角島灯台の上からの眺めは見る事は出来なかったですが、天気にも恵まれてとても美しいグラデーションの海を見る事が出来ました。特に本州側からの美しい海に架かった角島大橋はとても綺麗で、感受性が刺激され有意義でした。

『龍蔵寺』

(株)池田園緑化 池田 英夫

(株)小西造園土木 小西 修司

(株)植物環境リサーチ 亀山 雄一

はじめに

当日は朝から気温が高く、いわゆる「真夏日」で、移動だけでも体力を消耗するような暑さでした。しかし、その分、現地で感じた自然の涼やかさや木陰のありがたみが、より心に残る体験となりました。龍蔵寺は歴史的価値の高い名勝や庭園、寺社など多くの要素が含まれており、造園に関わる私たちにとって学びの多い場所でした。

概要・感想等

龍蔵寺は山口市の吉敷という地域にあるお寺で、奈良時代に行基によって開かれたとされています。

山あいであり、周囲は木々に囲まれていて、まるで別世界に来たような感覚になります。

とはいえ、当日は朝から気温がぐんぐん上がり、参道を歩くだけで汗がにじむような暑さでした。

帽子と水分が手放せない一日だったのは言うまでもありません。

そんな中でも、杉の並木や木陰の続く石段、苔むした境内など、自然の涼しさを感じられる場所が随所にあり、ホッとできました。

人の手を入れすぎず、自然と調和するように整えられた景観は、造園の仕事をする私たちにとって大いに参考になるものでした。

また、宝物庫にも立ち寄りしました。中には重要文化財の薬師如来坐像をはじめ、平安時代や鎌倉時代の仏像・仏具などが静かに展示されており、歴史の重みを感じる空間でした。

薄暗い室内で出会った仏像の表情はとても穏やかで、暑さを忘れてしばらく見入ってしまうほどでした。手入れの行き届いた境内の自然と、こうした文化財との組み合わせが、龍蔵寺の大きな魅力だと感じました。

楼門(入口)



「名勝 鼓の滝」へ登道



宝物庫



終わりに

今回の龍蔵寺見学では、気温は高くても心は落ち着くという、ちょっと不思議な体験をしました。自然の中に身を置くことで得られる涼やかさや癒し、そして時をかけて育まれてきた風景の持つ力に触れ、あらためて「造園っていいな」と感じたひとときでした。この学びを、日々の仕事にも活かしていきたいと思います。

元乃隅神社

(株)豊和緑地 豊田弘 小林太郎 (株)西部緑化 田仲秀基 (株)アティ東京支店 加藤晃司 中島仁
はじめに

元乃隅神社(もとのすみじんじゃ)は、昭和30年に、地域の網元であった岡村斉(おかむらひとし)さんの枕元に現れた白狐のお告げにより建立されました。

昭和30年頃まではお堂だけでしたが、昭和33年に祠を建立し、その後、昭和62年から平成9年に現在の社殿が整備され、赤い鳥居が123基奉納されました。10年間かけて奉納された鳥居が100m以上にわたって並ぶ景色はまさに圧巻で、山口県屈指の観光名所として人気があります。

神社の御利益

神社のご利益としては商売繁盛や大漁・海上安全をはじめ、良縁、子宝、開運厄除、福德円満、交通安全、学業成就など様々な願いごとができます。

龍宮の潮吹

《国指定天然記念物及び名勝》

「龍宮」は、この地帯の海蝕地形の総称です。この地帯は第4紀洪積世(現在より約200万年～1万年前)の安山岩からできています。岩の間に黄色く見える部分が流紋岩で、その部分が波で削れて洞ができます。

その洞内に打ち寄せる波が突入するごとに、圧縮された洞内の空気が縦約1m、横約0.2mの隙間より外に出ていこうとして海水と一緒に吹き上げる現象が見られます。吹き上げる海水は、北東の風が吹き海が荒れると30mにも達することがあるそうです。

白波が吹き上がる様子が天に昇る龍に似ていると言われ、自然の力強さを体感することが出来ます。

この奇観は龍神のなせるわざとして、広く里人の間に信仰を集め、とりわけ干ばつの際には近郷より雨乞いに集まる人が多かったと言われています。

『日本一お賽銭が入りづらい賽銭箱』

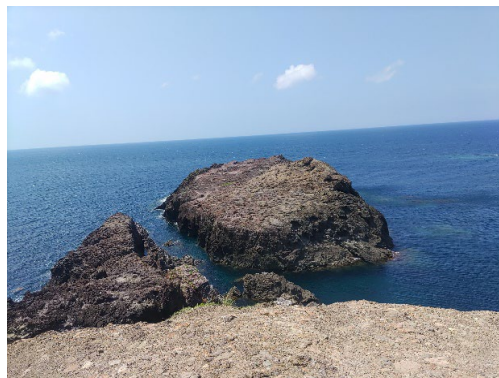
鳥居は高さ6メートル、賽銭箱の位置は5メートルの高さにあり、「日本一入れにくい賽銭箱」として有名です。参拝者はその鳥居の上に向かってお賽銭を投げ入れる必要があり、見事お賽銭が入れば願いが叶うと言われています。

終わりに

青い海を背に赤い鳥居と緑が映える景色が素晴らしい神社でした。CNNの『日本の美しい風景31選』にも選ばれ、観光客も多く訪れるようになったそうで、外国人観光客の増加・SNSをはじめとする情報発信の方法の変化なども含め興味深くまわることが出来ました。



(写真1)



(写真2)



(写真3)